MADOKAEN NEWS LETTER

ソレイユ

2026年 秋号

社会福祉法人　慶和会
障害者支援施設　まどか園
福岡県大野城市大字瓦田127-48
理事長：野田益男
編集・発行：広報委員会
TEL 092-504-6537

↑開園当初からいる利用者さんとスタッフで記念撮影。前列左からM田さん、O口さん、Y谷さん。後列左からF井さん、K瀬さん。最後尾の中央にいるのが下の原稿も書いた松尾施設長代理です。長年支えていただきありがとうございます。

25周年を迎えるにあたって、創設者の娘として思うこと

平成13年11月１日に筑紫地区唯一の身体障害者療護施設として誕生したまどか園も、本年ついに25周年を迎える事ができました。これもひとえに、これまでまどか園を支えてきてくださった皆様のお心添えの賜物と、心より感謝申し上げます。天国から温かく見守ってくれている両親も、とても喜んでいると思います。

母が施設長だった頃に入所された方から「お母さんに似てきたね」と言われるようになりました。身内を称賛するのはどうかと思われるかもしれませんが、娘の私から見て、母はとても素晴らしい人でした。誰に対しても平等で、惜しみない愛情を注げる、本当に愛に溢れた人でした。父母それぞれ形は違えど、二人から本当に惜しみない愛情を注がれて私は育ってきました。そんな母に似てきたと言われるのはとても誇らしい事ですが、私はまだまだ両親の足元にも及びません。しかし、両親がこのまどか園に注いできた情熱を私がこれからも絶やす事なく、未来へとつないで参ります。みんなを明るく照らす「太陽」となれるように。

〈施設長代理:松尾(旧姓:鶴田)奈津輝〉

イベント

この半年間で行なわれたイベントを一挙にご紹介。4月「お楽しみ給食会」、6月「まどカフェ」、7月「七夕会」、8月「居酒屋まどか」などを行ないました。

さて、今年も園内にいっぱい咲いた桜の木を建物内から眺め、安心して楽しめる春の宴「お楽しみ給食会」が開催されました。初夏には鬱陶しい梅雨を爽やかなスイーツとドリンクで癒す「まどカフェ」をオープン。７月７日には毎年恒例の「七夕会」。笹の葉に「福山雅治に会えますように」と書かれた短冊を見つけましたが…叶うわけありませんよ～、平穏な日常に感謝しましょう。夏バテの時期には「居酒屋まどか」を開店し、冷たい飲み物と背徳メニューで英気を養いました。2026年度の前半はFIFAワールドカップ並みに盛り上がりました！

↑①建物内にて野外のようなバーベキュー気分を味わう「お楽しみ給食会」。みんな騙されて～／②食べ放題の「まどカフェ」だけど、ほどほどにね。／③七夕は織姫と彦星に年に一度のデートを許す代わりに下界の夏を守る仕事をするよう願いを込めたのだろうなあ。／④S山さん居酒屋がよく似合います。やけ酒？

開園記録

鶴田陽子理事長、鶴田敏昭施設長のもと「温かい家庭のような園にしたい」との想いで始まったまどか園。25年前の開園式は期待と希望に溢れていました。

ご夫婦であった創設者のお二人、複数の社会福祉事業に取り組む中でまどか園を立ち上げました。目指したのは当時、敏昭施設長のお母様が入所していた佐賀の特別養護老人ホームで共感した家庭的な雰囲気。カラフルなカトラリーや、のんびりとした日常サイクルを採用しました。開園時はオープンの約２か月前から職員研修などの準備を進め、いざオープンしてからも新しい環境になじめない利用者様の対応に残業尽くめの毎日だったとか。礎を築いてくださった陽子理事長をはじめ初代スタッフには、心より敬意を表し、感謝申し上げます。

↑①第一号となる入所者さんのバックに初代スタッフが並び記念撮影。／②開園の神事にて祭壇に手を合わせる敏昭施設長。／③開園式には当時の大野城市長や市議会議長に県議会議員など多くの来賓がお見えになり、テレビの取材も入りました。／④挨拶を述べる陽子理事長。まだ五十代半ばという若さでした。

徒然日記

慶和会グループ4施設の様々な日常を写したスナップショットを集めました。
特別なイベントだけでなく普段の生活も、キラキラした大切なひと時です。

障害者支援施設 まどか園

子どもの日に童心にかえりまどか園兜をかぶってチャンバラごっこを楽しんだ皆さん。

突然遊びに来てくれた放デイ・スタッフの来訪を喜ぶ(?)S松さん。「早よ帰れ！」www。

外出支援にて学生時代を思い出し買い食いを楽しむU田さん。確かバスケット部でしたよね。

雨の日にドライブ・ランチスポットとしてまどか園に来てくれたさんさんキッズたち。かわいい～

放課後等デイサービス まどか園

筑紫野市にあるあじさい園に行きました。いろんな色のあじさいが咲いてとってもキレイでした。

みんなでバードハウスに行きました。しゃべるオウムやニワトリ、フクロウもいました。

まどかえんにちを開催！ヨーヨー釣りをみんなしっかり釣りあげて楽しんでくれました。

スタッフがスイカの顔ハメを作ってくれました。笑顔いっぱいの素敵な写真が撮れました。

児童発達支援 さんさんキッズ

畑で育てた野菜が大きくなり収穫しました。葉っぱの中をのぞきながら野菜を探しました。

プール遊び。お友達と水をかけあったり、全身を使って遊びました。

動物サーキット。いろんな動物の動きを真似しながらジャーンプ！元気いっぱい楽しみました。

カブトムシがやってきたよ！ケースをのぞいて観察したり、霧吹きでお世話をしたりしました。

放課後等デイサービス さんさん

雁ノ巣にあるサイクリングセンターにおでかけ！誰でも最初は乗れませんよね。練習練習。

トリアス久山のふれあい動物園に行きました。リスザルのエサやりも体験することができました。

福岡市博物館で展示を見た後、みんなで様々な国の民族衣装や被り物を試着してきました。

マリンワールドに遊びに行きました。いろんな海の生き物たちを興味津々で眺める子ども達。

三枠漫画

毎日まどか園 vol.14

作：鞘野 明
まどか園の生活支援員。漫画好きが高じて自らもペンをとるアマチュア漫画家。その風貌から「和尚」と呼ばれ親しまれている。

募集告知

まどか園では、通所(生活介護）の利用を希望されている方、および笑顔で元気に働いていただけるスタッフを募集しています。詳しくは℡092-504-6537までお問合せください。お待ちしていまーす！

編集後記

僕の兄は生まれつきの障害を持ち(ムコ多糖症)、41歳で上の漫画の皆さんのように星になりました。高校での成績なんて僕なんかよりも良く、大学では芸術学部に籍を置いていました。生前兄が僕に言ってくれた言葉は未だに金言として心の中に残り、人生に生かしています。タモリさんじゃありませんが、僕も兄が作った多くの作品のひとつだと思っています。ありがとう兄貴。合掌。〈編集部：浅草〉